

カトリック八尾教会ニュース



2024年7月

【今月の予定】

ミサの時間

Tháng bảy

1日(月) 福者ペテロ岐部司祭と187殉教者

7日(日) 年間第14主日 7:00

10:00

故. パウロ中村三郎神父様帰天(2015.7.1)
小教区評議会(ミサ後)

14日(日) 年間第15主日 7:00

10:00

故. B. ラブレ生藤達男神父様帰天(2022.7.11)

20日(土) 子ども会、初聖体勉強会 14:00

16:00

21日(日) 年間第16主日 7:00

10:00

病者のための祈り

ベトナム語のミサ 15:00

28日(日) 年間第17主日 7:00

10:00

子どもとともにささげるミサ



【平日のミサ】

木曜日

10:00

4日、11日、18日<25日はお休み>

■かわちブロック(布施、枚岡、八尾教会)子ども会の夏のつどいのおしらせ

日時: 2024年8月3日(土) 午後1時~午後7時30分

場所: 八尾教会

参加費: 500円(当日持ってくる)

申込み締め切り: 7月7日(日) リーダーまで

スケジュール: (午後) 1:00 集合 <みんなであそぼう!!>

シャボン玉、スパーボールすくい、紙ひこうき、紙けん玉作り、
平和旬間コーナー、スイカわり、おやつ、ミサ・・・夕食

7:30 解散

※おねがい: ①小学1年生の子どもは保護者も参加してください。

②夜の解散になるため、必ず、お迎えにきてください。



■(教区)「青年と子どもの練成会」のおしらせ

日時：2024年8月10日(土)～12日(月、祝)

場所：ヴェリスタ城星学園(玉造教会近く)

対象：小学3年生～中学3年生

参加募集人数：50名 参加費：6000円

申込み締切日：7月26日(金)

***リーダーたちや神父さんたちとともに遊び、学びながら

豊かな時間を過ごそう!***

◎申込み方法など詳しくは、ポスター及び教区のホームページを

ご覧ください。



■募金の報告

<1月から5月>・能登半島地震支援 132,272円 (カリタス及び名古屋教区へ)

・釜ヶ崎支援 13,373円 (教区へ)

◎災害や貧困を自分のこととして、心を痛み、ご支援いただいた皆様に、豊かなお恵みが
ありますように、、、
(社会活動委員会)

■初聖体志願式がありました!

5月26日(日)10時ミサにて

今年も8人の子どもたちが来春の初聖体式にむけ、
準備をはじめました。

神父さまやリーダーたちと共にイエスさまに導かれ、
歩むことができるよう祈りを捧げました。

(子ども会)



■日本カトリック平和旬間につて<8月6日～8月15日>

—教皇ヨハネ・パウロ二世の広島『平和アピール』と『平和旬間』—

1981年2月25日、「平和の巡礼者」として来日されたヨハネ・パウロ二世は、「戦争は人間の仕業です。戦争は人間の生命の破壊です。戦争は死です。・・・日本の二つの町、広島と長崎は「人間は信じられない程の破壊ができる」ということの証として、存在する悲運を担った、世界に類のない町です。・・・過去を振り返ることは、将来に対する責任を担うことです。暴力と憎しみにかえて、信頼と思いやりを持ちましょう。再び戦争のないように力を尽くしましょう。」と広島『アピール』を遺されました。全世界の若者たちに対し

て「共に手を取り合って、友情と団結ある未来をつくろうではありませんか。窮乏の中にある兄弟姉妹に手を差し伸べ、空腹に苦しむ者に食物をあたえ、家のない者に宿を与え、踏みにじられたものを自由にし、不正の支配するところに正義をもたらし、武器の支配するところには



へいわ 平和をもたらそうではありませんか。あなた方の若い精神は、善と愛を行う大きな力を持っています。人類
どうほう 同胞のために、その精神をつかいなさい」と。また、神を信じる人々へは、「神が我々の一致を望まれていることを知って、団結しようではありませんか。愛を持ち自己を与えることは、かなたの理想ではなく、永遠
へいわ かみ へいわ 平和の平和への道だということに目覚めようではありませんか」と。戦争を振り返り、平和を思うとき、
へいわ たん 平和は単なる願望ではなく、具体的行動でなければなりません。そこで、日本のカトリック教会は、教皇の
ひろしま へいわ 広島での平和メッセージの翌年、もっとも身近で忘れることのできない、広島や長崎の事実を思い起こす
てき かつ にち かつ にち のに適した8月6日から8月15日までの10日間を「日本カトリック平和旬間」と決めました。「平和旬間」に、
ひろしまきょうく ながさききょうく ぜんこく しきょう おお しんじゃ あつ 広島教区と長崎教区では、全国から司教をはじめとして多くの信者が集まり、「平和旬間ミサ」がささげら
かくきょうく へいわきがん へいわこうしん へいわ しゅだい えいがかい こうえんかい けんしゅうかい へいわ もと
る署名などが行われます。1945年8月6日午前8時15分 広島に、人類史上初の原子爆弾1発により、
やく 16まん せんにん しばう 8月9日 午前11時2分 広島の日後、長崎に原子爆弾1発が投下され、約7
まん せんにん しばう げんしぼくだん ひぼく ながさき げんしぼくだん 1はつ とうか やく
方4千人が死亡。※原子爆弾の被曝により、長きにわたって苦しまれた方々も多数おられる。(白血病や
こういししょう 後遺症など)

だい2じせかい 第2次世界(6,500万人が死亡)大戦が終わったら、世界に平和が訪れると思われたが、各地で紛争が
た 絶えず、朝鮮戦争(アメリカ軍33,667,南朝鮮25万人、民間人75万人、中国軍50万人、北朝鮮軍50
まんにん 民間人200万人以上)・ベトナム(アメリカ軍58,000人、南ベトナム人335万人、北ベトナム人30
まんにんいじょう せんそう ちゅうとうせんそう せんそう げんざい 0万人以上)戦争、中東戦争、イランイラク戦争、いま現在・おこっているウクライナ戦争・カザ・イスラエル
ぶんそうとうじんるい たたか つづ 紛争等人類の戦いが続いている。

おおさかたかまつだいしきょうく ことし へいわ くる ひと こえ みみ
カトリック大阪高松大司教区の今年の平和旬間のテーマは「いまこそ平和を一苦しむ人びとの声に耳を
かたむ こと や おきょうかい おお じん しんと ざいせき まいねん
傾け応えていこう」です。八尾教会にも多くのベトナム人カトリック信徒が在籍していますが、毎年
おこな へいわじゅんかん し おも ぶんしよ じゅんぴ
行われる平和旬間ってどういうことなのかを知ってもらいたいと思いこの文書を準備しました。

ねん せいき せんそうし ながさきひぼくしや たいけんだん へいわじゅんかん いぎ りかい たが たしせつ
2023年は「20世紀の戦争史と長崎被爆者の体験談でした。「平和旬間」の意義を理解し、互いを大切
にし合う関係を実現し、平和をつなぐために「わたし」「わたしたち」にできることをご家庭、小教区、地区な
いっしょ きが こうどう うつ けつじ へいわじゅんかん
どで一緒に探し、行動に移す決意の平和旬間にしましょう。

しりょう 準備 2024年5月 準備 (信徒H・K)

兄と共に音楽を。

チエ 周永神父

な あに ゆめ で
亡き兄が夢に出てきた。

この前の土曜日、初聖体の勉強会と聖書勉強会が終わり、夕食を取った後、疲れのあまりに
ベッドで横になり目をつぶっている間、眠ってしまった時のことだ。

短いけど、夢を見たのだ。ある建物の廊下で誰かが私の傍を歩いていった。兄だとは認識で
きず、ただ他の知り合いかなと思っていると、彼から声が聞こえてきた。俺だよ、と。

兄の声だった！死んだ兄を夢で見た時、すすり泣いている自分を感じた。声がするし、夢の中で
ありながらも、まるで実体をもっている人間のように感じさせた兄の輪郭が、こよなく悲しかった。

もう二度と触れることも出来ない、会話を交わすこともあり得ない、兄が夢に現れたのだった。
最近、新しい音楽との出会いがあった。フランス・リストだ。近頃、韓ドラの「ブラームス
は好きですか」を夜更かししながら見ていたが、シューマン作曲でリスト編曲の「献呈」
(Widmung、君に捧ぐ)が演奏されるシーンがあったかは今覚えてないが、シューマンとクララ、
それにブラームス3人の友情を主なモチーフとしているあのドラマでリストを再発見したとは
面白いことだ。リストの曲をスポティファイで検索して聴いてみた。バッハー、ベートーヴェ
ンのピアノ曲のみに慣れていて自分に、これこそ、探していた音楽だと気づいた。破格で自由
それに想像力に富んだリストの作品を、こんなにも遅く聴くことになったとは！
心に響いてくる感動に、リストの作品を聴きながら兄のことを思い出す。兄はこの素晴らし
い曲を聴いたのかと。恐らく、ジャズや古典的なロック、それにブルースロックにどっぷり浸か
っていた兄にとってクラシックは異世界のものだったかもしれない。兄の部屋にあるかなりのCD
の中にクラシック音楽は一枚もなかった。兄の時間を満たしていた音楽、つまり、一日の終わりに
疲れを癒してくれていたであろう曲というのが、今私が聴いている音楽とかなりの距離があるにせ
よ、奏でられている楽器の音に耳を傾けながら、音が聴こえては次の音に席を譲って消えていく
ことに、寂しさを感じていたはずだ、と思う。何故なら、繊細な兄は、一見ぶっきらぼうで、い
ろいろな心の傷を抱えていたので、時には激しく、また時には切なく悲しい限りのあの音楽の数々、
つまり、流れ出しては消えていく音らに自分を重ねていたに違いない。

それが音楽というものだし、音楽を聴く行為なのだ。

ニーノ・グヴェタツゼ (Nino Gvetadze) が奏でる、リストのピアノソナタが部屋の片方で
響いている今、明日から始まる忙しい一週間で待っているのに、いつまでもいつまでも音楽を
聴きながら夜更かししたくなる。

兄さん、この素晴らしい演奏を、
あなたも聴いているでしょうね、
あそこでね。

